

みなさんの笑顔をお届けします…

# カメラレポート



毎月15日号は、市民のみなさんに季節の話題や出来事などを主にお伝えしています。

## 医療現場の今を語る 地域医療を考える集い

《11月1日》



高山赤十字病院、久美愛厚生病院、高山厚生病院、飛驒市民病院の各病院長がパネリストを務める「飛驒の医療は今」と題した集いが市役所地下ホールで行われ、地域医療の実情について意見を交わしました。

各病院長は、地域医療や病院が直面する課題を分かりやすく説明。参加者は熱心に聞き入っていました。

## 幾多の功績に栄えある表彰 高山市表彰式

《11月1日》



市政の発展に貢献された方を表彰する高山市表彰式が市役所で行われ、76人と1団体が表彰されました。

式では、自治功労章を受賞した梶井正美さんが「受賞は地域の支えがあってこそ。これからも地域の発展のために頑張りたい」と受賞者を代表して謝辞を述べられました。

## 手打ちの新そばに舌鼓 ひだ荘川そばまつり 《11月2～3日》

新そばがいち早く味わえる恒例の「ひだ荘川そばまつり」が荘川の里（荘川町新湊）で開催され、用意した5,000食の新そばに、来場者が舌鼓を打ちました。

まつりでは、そば打ち体験や名人の模範そば打ちの披露なども行われ、家族連れなどが深まりゆく秋を満喫しました。



## 宿 饗まつりに新名物が登場

飛驒にゅうかわ宿饗まつり 《11月3日》

日本一の大鍋に代わる新たな名物として、飛驒にゅうかわ宿饗まつり実行委員会が「宿饗もち」を開発し、4,400食が振る舞われました。このもちは、地元で採れる古代米や宿饗かぼちゃを原材料にしたもので、地域の新名物に期待が高まります。

また、まつり会場も、合併記念公園として整備した「グリーンパークひろ野」となり、訪れたみなさんは広大な芝生広場で秋の一日を過ごしました。

